

緊急シンポジウム

日本のスポーツ博物館の未来を考える

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を目前に控える中、日本のスポーツ資料の保存が大きな危機を迎えている。現在、国内には230を超えるスポーツ関連博物館があるとされているが、学芸員及び司書が配置されている総合的な機関は秩父宮記念スポーツ博物館のみである。同博物館は、1954年の開設以来、スポーツ文化財の収集・保管のナショナル・センターとしての役割を担ってきたが、旧国立競技場の解体に伴い、現在は休館を余儀なくされている。また、来たる2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する資料アーカイブ体制も確立されていない。各競技団体が有している各種競技大会等に関する膨大な資料も体系的な保存がなされておらず、我が国のスポーツ博物館は国際的に大きく立ち遅れている。このような状況の中、秩父宮記念スポーツ博物館を所管する独立行政法人日本スポーツ振興センターは、今年7月に「スポーツ博物館将来構想検討会議」を発足させ、今年度末月には「審議のまとめ」を公表する予定である。本シンポジウムでは、同検討会議における議論も踏まえつつ、日本のスポーツ博物館はどうあるべきか、その将来像について展望する。

○基調講演

松原 茂章氏 スポーツフォトエージェンシー
株式会社フォート・キシモト 顧問

○スポーツ博物館将来構想検討会議報告

來田 享子氏 中京大学 スポーツ科学部教授

○シンポジウム

栗原 祐司氏 京都国立博物館副館長（コーディネーター）
真田 久氏 筑波大学体育系教授
江川 哲二氏 わかやまスポーツ伝承館館長
下湯 直樹氏 日本オリンピックミュージアム準備室学芸員
山下 治子氏 ミュージアム雑誌「ミュゼ」編集長

日時：2019年1月27日（日）13:30～17:30

場所：東京都美術館 講堂（東京都台東区上野公園 8-36）

参加費：無料

主催：全日本博物館学会、日本展示学会、日本ミュージアム・マネジメント学会

後援：公益財団法人日本博物館協会、アート・ドキュメンテーション学会